

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201039		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ松本西グループホーム		
所在地	長野県松本市笹賀5514-6		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成25年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域密着」「笑い・笑顔をお年寄りに」をモットーに様々な活動を行なっています。地域密着としては、町会内の一員として地域の催しに参加したり、地域の方をホームに招いて催しを開いたり、地域ボランティアの方々に来て頂いたり、色々な「人のふれあい」を大事にしています。また、週1回行なっている施設周辺のごみ拾いをする「クリーン活動」も大事な活動の1つです。
 “私たちは一人ひとりの出来ること、したいことを最大限に活かし、支えあい、地域と共に暮らす協働者であり続けます”という理念に基づいたケアが出来るように努め、お年寄りとそのご家族が元気で安心して生活できるように自宅に近い空間を提供できるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10周年を迎え、昨年事業所名が「ふれあいの家」から変更されたが、新築2階建て2ユニットの事業所で、複数開業医院が隣接している。開設時からの地道な地域密着への取り組みは、地域の方の入居にも結びつき、地区公民館でのお茶会、地域のボランティアの方々の出入り、町会役員の方々の運営推進会議への参加や協力など、様々な形で地域でのおつきあいや、事業所の大きな力となっている。
 その人らしさを大切に、慣れ親しんだ暮らしをゆったりと一緒に過ごす職員は、「笑顔」が印象的である。美味しい食事が用意されている台所からの匂い、自由に入出りできるサッシの外には物干し台が置かれ、掃除に使われている雑巾はきれいに洗って干され、広々としたロビーには職員が見え隠れし、ご家族と共に、安心してつづげる「家」を目指している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(りんどう)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(しらかば)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外事務所に理念を掲げ職員も日々、地域の方との交流、関係作りを大切にしている。	事業所の玄関脇にある事務所内に法人理念、事業所独自の理念、基本方針が掲げられている。理念は事業所開設時に検討され作成されたもので、朝礼時などに職員は確認し、パンフレットにも掲載し、説明している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホームの行事に来て頂いている。畑での活動、散歩、毎週のクリーン活動時等は挨拶し日常的な交流がある。ふれあい通信の回覧。	事業所のお便り「ふれあい通信」は町会の協力で毎月全戸に回覧され、介護相談の窓口としての役割も果たしている。町会費も納め、役員の方達と相談しながら地域行事にも参加されている。毎年、小学生の希望者が先生引率で来所し、運動会のお誘いも頂いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい通信の回覧にて毎月どのような活動を行なっているか知ってもらっている。運営推進会議、行事参加の際、実際の様子を見ていただき認知症の理解、支援に繋げている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回運営推進会議を開き状況報告、話し合いを行なっている。要望、意見はサービスの向上に活かす様努めている。	2ヶ月に1回に会議を実施され、町会長、民生委員、ご家族、入居者、包括支援センター職員が参加されている。3回ごとに市に報告書を提出しており、防災体制、行事の様子など報告し、お便りの内容についての意見を頂くなど、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議の委員として、非常時に関係する駐在さんや消防団、その他小学校の先生など運営に関係する様々な方にご協力頂けるように、メンバーの検討を望む。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	管理者の変更や事業所の名称変更など、行政の担当者の元に直接訪問し、顔を合わせるなど積極的に取り組んでいる。	事業所の実情を理解して頂くためにも、書面や事業所からの報告、電話などの一方向ではなく、市の担当者または担当課が事業所へ訪問しての双方向の協働関係となることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ご家族様にも説明した上で、安全の為、玄関の施錠をさせて頂き、職員間でも日々のケアが拘束にならないか気をつけながら業務にあたっている。</p>	<p>事業所内外の研修に計画的に取り組み、職員内でも禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為についても、意識してケアに取り組まれている。安全の理由から、玄関は施錠されているが、ロビーのサッシからは外の洗濯干しに自由に出入りしている。</p>	<p>玄関を常に施錠しているが、施錠が常に必要か、職員全体で再検討し、「その人らしさを大切に」より質の高いケアを目指すことを期待する。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会、ミーティングなどで学び、日々のケアが虐待に繋がっていないか職員間で意識し、お互いに情報交換することで防いでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>活用されているご利用者がいるので、実践を通じて制度を知る機会にはなっている。他者の必要時も活用できるよう支援していく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者、計画作成担当者を通じて、ご家族様の不安、疑問点を尋ね、十分に納得して頂いた上で対応している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。また、来訪時連絡時には、こまめにやり取りをし意見要望等を聞きやすい関係りに努めている。</p>	<p>ご家族に応じて、来所時や電話等で意見や要望を伺っている。意見箱に入っていた運営への意見は、職員や運営推進会議でも検討している。家族会は結成していないが、行事などでご家族が一緒になるときは、なごやかに交流されている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング、朝礼時等で管理者に伝え可能な限り反映してもらっている。</p>	<p>毎月のミーティング、その後のユニットごとの会議はほぼ全員参加し、活発に意見交換され、運営に反映するよう管理者は努力している。入社時と年1回は、個人面談も実施している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社にて職場環境、条件の整備が図られている。 業務の見直しを常に行ない、働きやすい環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外で定期的に研修が行なわれている。研修希望者には、参加できるよう勤務調整している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、会議、訪問見学で他事業所との交流はあるが、職員同士の交流はほとんどない。管理者が多い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安、要望を聞きながら、どのようにしたら安心して生活できるかを考えている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、要望を聞きながら安心して生活できるかを説明し、プラン内容に反映したりし、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事等を一通り伺った上で、現段階で優先すべきことを考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという意識はあまりもたずに、協働者という考えで、お互いの足りない面を補いながら関係、雰囲気作りしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いに寄り添いながら、ご家族様、ご本人様の関係性を大切に支援している。ご家族様と同じ思いを共有できるよう月1回の手紙で様子を伝えたり訪問時、連絡にてこまめにやり取りしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお茶会の参加 希望があればなじみの美容院、かかりつけ医、電話連絡できるよう支援している。面会にも来て頂いている。	地区公民館でのお茶会に参加している方、馴染みの美容室へ行く方がおられる。葉書への返事、年賀状も個々に合わせて書くなどのお手伝いをしている。外出や墓参り、外泊などご家族の協力を得ており、フロアごとの電話は、自分でかけたり、個々にお手伝いしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のホールで過ごさせることでご利用者様同士の関わり合いがある。関係性を職員が把握し、介入しながら良い関係を築けるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に行かせて頂き、必要、希望があれば相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動、表情から気持ちを汲み取り、これまでの生活歴から考え、また、相手の立場になって検討している。	一緒にお茶を飲んだり、居室等で1対1になったときに発した入居者の言葉を大切にしている。契約時は、自宅を訪問し、家での様子などお聞きし、これまでの暮らし方を理解する助けとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様、ご家族様から生活暦等を伺い記録、申し送りをし全職員が把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子観察に努め、記録に残し、また、申し送りをし現状把握できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様の意見要望を取り入れ、カンファにて職員、管理者で課題、ケア等について話し合いプランに反映している。	3ヶ月ごと、変化に応じて、職員全員で独自のアセスメント表を利用し、介護計画を検討している。ご家族にも口頭や郵送で意見を頂いている。日々の記録も、計画に基づくように工夫している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録に残し職員間で共有し、実践、プランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスや対応以外にも、職員の知識、アイデアを出し合って柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設、民生委員、警察、消防署等と連携を図っている。地域の方にボランティアに来ていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の要望を伺い、決めている。</p> <p>ホームのかかりつけ医には、状態等丁寧に報告している。</p>	<p>かかりつけ医は、ご家族や本人の意向を尊重しており、受診介助の結果などは、毎月のお便りや電話などでご家族に報告している。歯科も、協力医に受診介助している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時、24時間体制なので連絡を取り、適切な指示を受けている。看護師とのノートもあり、情報交換もしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報交換、相談を出来る限りこまめに行ない、安心して治療、早期退院できるように努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化等の時になった際に、説明させていただき、話し合い、また、理解して頂いている。</p>	<p>重度化、看取りの指針が作成され、契約書にも書かれ、文書に沿って、入居時や状態に応じて説明し、ご理解頂く様支援に取り組んでいる。事業所での看取りの事例はないが、自宅へ帰られた方への、支援を経験している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防による講習や研修にて訓練している。緊急連絡網作成し事務所に提示している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練行なっている。地域の方々にも参加していただいている。</p>	<p>年に2回、消防署、近所の方も参加しての避難訓練が火災、地震、夜間など想定して実施されている。スプリンクラー、通報装置などの設備も整備され、食料、水も備蓄している。昨年、地区町会と防災に関する協定を結び、情報交換や意見交換を行っている。</p>	<p>夜間は人的体制が手薄になり、2階建てでもあり、入居者が避難できるような繰り返しの訓練と職員の体制確認が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しその方に適した言葉かけや、対応に努め、会議等でも見直している。	計画的に事業所内外で研修に取り組んでいる。日常的に管理者が気になるときなど、会議、朝礼などで、具体的に実際の職員の言葉かけを投げ掛けて、見直している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、自己決定できる場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、希望を大切に、できる限り個別性のある支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示出来る方には選んで頂いている。また、これまでの習慣、こだわりなどから、その方らしい身だしなみに配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様と行っている。 季節の食材、献立、ご利用様の好みを取り入れ、形態にも工夫し職員と共に食事時間を楽しんでいる。	献立は、テレビや広告を見て発した入居者の思いを入れるなど、作る人が決め、入居者のお手伝いを得て作り、職員と一緒に食卓を囲んでいる。回転寿司やそば屋さんなど、計画して皆で出かけている。5月の味噌造り、干し柿、漬け物など利用者の持てる力を活かして取り組んでいる。晩酌を楽しむ方もおられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を日々確認している。 少ない方は、申し送りし適切に摂取できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせたケアを毎食後行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しさりげない誘導、確認し状態に合わせた支援をしている。	自立、見守りの方、布パンツ、パッド使用、リハビリパンツの方、時間や仕草など、個々に合わせて支援している。記録は台所でそっとメモする、トイレ内に置く物への配慮などさりげない支援となるよう心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食材、乳製品、体操等を取り入れ予防しているが、下剤も使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で、好まれる時間帯で入浴の誘いをしている。断られた際は、タイミングをみて誘っている。	本人の意思を尊重しながら、週に2回以上は入浴できるように支援している。本人の希望で、夕飯前の入浴になる方など好みの時間にも配慮している。足浴や菖蒲湯、入浴剤なども楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣、希望、体調等に合わせ休息を促している。夜間は特に、音、光、室温に注意し、眠れない方にはマッサージ、暖かい飲み物等を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書を読んだり医師、薬剤師、看護師からの説明で把握している。薬変更時は、申し送りを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をお願いすることで経験、知識を発揮する場面を作っている。 嗜好品も希望に合わせ提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日に沿っては難しい面があるが、庭に出たり散歩、畑、ドライブにと外出はしている。 季節にあった外出行事も多く取り入れている。	洗濯物は、ホール前の物干し台やベランダに干し、事業所で大家さんから借りている近くの畑まで出かけての農作業、散歩などで外出している。季節ごとにドライブしての夕食、花見などの機会を設けている。家族の協力で、出かける方もおられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はいないが、買い物時希望があれば所持できるよう支援していく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットに電話設置しており、自由にかけただけのようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、手作りの装飾品で季節感を出している。 常に不快がないか注意している。調理の音、においは生活感に繋がっている。	ホールはゆったりと広く、明るい。壁には、手造りの工作物、飾り、書き初めの習字などが飾られている。トイレは手書きの札、各居室の入り口も個々に分かり易い表示など工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでご利用者様それぞれの位置がおおよそ決まっておりそこが、安心する場所となっている。居室でも自由に行き来して過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた家具、小物、写真等を配置している。居室内は、自由に使って頂いて構わないと伝えてある。	居室には個人持ちのベッドやそれぞれ馴染みの棚やタンスなどが置かれ、手造りの持ち込みのゴミ箱があり、思い思いの写真や小物が飾られている。造り付けの洗面台が各居室にあり、好みの化粧品、櫛が置かれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動線上には障害になるものは置かないようにしている。 居室内では、危険が考えられる場合は、ご家族様とも相談し配置を考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲げ、朝礼時、会議時に確認し実践に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、事業所行事で互いに参加し、小学生訪問、地域のお茶会、ボランティア等の交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に月1回の通信を回覧し理解、支援を呼びかけ、また、相談窓口があることを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し意見交換し質の向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	窓口は管理者ではあるが、連絡を取り協力関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はしているが、入居時に説明しご理解得られている。現在、身体拘束はしていないが、日々、気にしながらケアにあたっており、勉強会も行っている。リスク会議でも話し合っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、意識を高め日々、見逃さないよう努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が対応しており、全職員が理解していない。支援できる体制が正直万全とはいえない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は、全職員が対応していない。説明時は、時間に余裕を持って料金、リスク、重度化、人員体制等詳しく説明している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。来訪時、連絡の際にお話を聞き、対応できるように努めている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談、会議、朝礼時等に意見を聞きだしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の相談等、聞くよう心がけている。会議では、業務の見直しをし円滑に回るよう努めている。 キャリアパス制度あるも、上手く活用されていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、資格取得の機会を増やし個人のスキルUPに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流が少なく、意見交換、質の向上ができていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の観察、何気ない会話の中から不安、要望を把握し会議で話し合いをしている。ご本人様との信頼関係に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時、連絡した際に、近状報告し傾聴する姿勢をつくり、些細なことでも記録におとし職員間の情報共有し関係作りしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には必ず、意見、要望を聞いているので会議で話し合い見極め、プランに反映している。結果もこまめに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働者として助け、助けられる関係性を築き、喜怒哀楽を共にし日々、一緒に過ごしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の手紙に写真付きで報告し、情報を共有している。外出、外泊を無理なく促し、職員の思いも伝えながら共に支えていくようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を出来る限り尊重し、知人、友人の面会はいつでも可能であることをご家族様には伝えているが、一部の方のみである。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごされている事がほとんどで、家事、工作等で関わり合っているが、トラブルもあるので職員の介入が必要である。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、面会に行かせていただくことはあるが、ご家族様からの相談はあまりない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、何気ない一言も聞き漏らさずにし、また、言動、表情から汲み取り、相手側にたって考え検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご家族様、ご本人様から聞き取るようにしている。入居されてからもご本人様の発言を元にご家族様に聞きとることもしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活リズムを理解し小さな動作も把握し、見守りする時間を多くすることで現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望や思いを反映する為に全職員で意見交換しプランを作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、小さな出来事も記録に残し、プランの見直しに活かしている。 食事量、水分量、排泄表作成し情報共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じて通院、オムツ発注等、柔軟な支援に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設、民生委員、警察、消防署等と連携を図っている。地域の方にボランティアに来ていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の希望に応じて対応している。</p> <p>かかりつけ医とは、こまめに連絡し相談している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時、また24時間体制なのですぐ連絡し報告、相談している。</p> <p>看護師とのノートもあるので、些細なことでも記入し情報共有している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、情報交換しその後も、出来るだけ連絡を取り、早期退院に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化等の時になった際に、説明させていただき、話し合い、また、理解して頂いている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署に依頼し講習を受けました、勉強会をおこなっている。</p> <p>マニュアル提示し対応している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回訓練し、地域の方々も参加して頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会、会議でも話し合っている。 個々にあった声かけ、周りに配慮した声かけ、一人ひとりを尊重した声かけをしさりげなく対応するよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側が決めたことを押し付けず、些細なことでも確認、自己決定する場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間の流れはあるが、一人ひとりの体調をみて、その時のご本人様の気持ちを尊重し支援している。 晩酌を楽しまれているご利用者様もいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣を把握し、意思疎通が困難な方には、介入している。出来る方には、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に作業し、同じテーブルで同じ献立でお話しながら楽しい食事が出るようにしている。 季節の食材、献立を一緒に考えたり、個々に合った形態で提供している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	使用した食材を記録し、食事量、水分量を日々確認し把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個々にあったケアをしている。口臭にも注意している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握しトイレ誘導している。なるべく、オムツは使用しないよう日々検討している。 自尊心、羞恥心にも配慮する。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分、食材、乳製品、体操等を取り入れ予防しているが、下剤も使用している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決めてあるが、ご本人様の意思を確認してから入浴していただいている。 断られる方には、翌日、時間差、職員をかえてみるなど工夫している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活のメリハリをつけ夜は眠れるよう努めている。夜は特に、音、光、匂い、室温に注意を払っている。 個々の状態に合わせていつでも、休息できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し理解し服薬している。飲み込むまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味、特技を聞き取りしているので活かしている。 出来ることを見つけ出し、行っていただいたらその都度、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を与えられるような外出レクをしたり、畑作業、その日にご本人様が発言した内容を出来る限り実行し楽しんで頂いている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、金銭所持は控えて頂いている。 買い物時は、所持を促してはいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットに電話設置してあり、自由にかけただけのようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物、ソファ、本棚等設置し家庭的な雰囲気を作り出すようにしている。 季節を感じられるように飾り付けと一緒に考え工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に気に入った場所があり過ごされ、ご家族様等が来訪された際は、居室または空間を作るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使用して頂けるようお話しており、入居時には、使い慣れた物を持ってきていただけるようお願いしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。自立して歩行できるように手すり周辺には、なるべく物を置かないようにしている。		

目標達成計画

作成日：平成 26年 3月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2ヶ月に一回開催されている運営推進会議の参加者は地域の方や知見者の方が中心に開催されている。今後、離設などの事故を考えて、駐在さんや松本市の職員さんの参加を考える。	運営推進会議の参加を呼びかけ、グループホームの取り組みなどを知っていただく。	運営推進会議の開催日時を郵送などで知らせる。地域包括の職員のほかに松本市の高齢福祉課の職員にもお知らせをする。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。